**平成27年度　第1回　大阪府泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時：平成27年5月27日（水）14:00～17:00

場所：泉佐野丘陵緑地 パークセンター ほか

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

大輪会事務局　中村学

泉佐野市都市整備部　部長　真瀬三智広

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

◆欠席

大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

◆傍聴者

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　1名

◆概要

1. 現地確認 14:00～

2. 開会　　　　 　　15:00～

3. 出席者紹介

4. 報告案件 2件　 15:05〜

 　　①H26年度　大輪会からの支援について

　　②プログラム活動報告（3月～4月）

5. 協議案件　3件　　 15:50〜16:50

①持込み型プログラムの審査

　・えんづくりプログラム

　・郷の棚田プログラム

　　②公園の愛称募集について

　　③開園1周年イベントについて

6. 閉会 17:00

〇会長の選定について

・事務局より、会長を昨年度に引き続き増田委員にお願いしたいとの提案をしたところ、委員全員一致で承認された。

◆**平成27年度 運営審議会　開催計画について**

大阪府（以下、事務局）より平成27年度 運営審議会 開催計画について説明。

**増田会長**

・天神川の現状把握はホタル観察場のことを指すのか。またホタルはもう現れているか。

**大家委員**

・今年のホタルは、2週間ほど早く現れているため、29日に内部だけで調査会を行う。

**増田会長**

・地元のホタルの会はまだ活動されているのか。

**松井委員**

・ホタルの会はまだ存続しているが、活動は行っていないと聞いている。

**増田会長**

・企業の森については、いきなり活動を行うのではなく、大きな地図を書くなど、将来像を描きながら小区画で活動を行っていくとよい。

**下村委員**

・企業の森も福利厚生の一環として、ゆっくり整備をしていくとよい。

**増田会長**

・企業の森づくりの際には、パーククラブにはぜひ指導役を担っていただきたい。

＜**報告案件1：平成26年度　大輪会からの支援について＞**

事務局より、平成26年度の大輪会からの支援について説明。

**増田会長**

・花苗ヤードの活用について、パーククラブで花苗のチームを作るとよい。

**松井委員**

・花が好きなメンバーもいるため、今後花苗ヤードを活用する予定である。

＜**報告案件２：プログラム活動報告（3月～4月）＞**

大家委員よりパーククラブのプログラム、事務局より大阪府によるプログラムについて報告。

**松井委員**

・パーククラブ設立5周年にあたり、5年史の制作を進めていく予定である。内容について、委員の方々からも意見をいただきたい。

・緑の都市賞の「市民協働部門」に、大輪会と連名で応募したい。支援については、大阪府立大学や大阪府で行ってほしい。

**増田会長**

・緑の都市賞については、ボランティア活動が公園づくりに直結している例が少ないため、その点をアピールするとよい。また、企業と連携していることもアピールすべき点である。

**大家委員**

・パーククラブの中には活動を頑張り過ぎるメンバーが多いので、ケガや病気についてさらに配慮したい。

**増田会長**

・消防署が行っている救護講習を受講するとよい。

**下村委員**

・5年史について、単に活動実績をアピールするだけでなく、運営審議会での仕組みづくりや大輪会との協働など、パーククラブの設立経緯についても触れるとよい。

**増田会長**

・経緯については、パークレンジャー養成講座で使用したパワーポイントを使用したらよい。

・本年度は小学校の環境学習の受け入れを目標にするとよい。泉佐野市と協力し、教育委員会などに営業に行く必要がある。

**事務局**

・すでに小学校から公園の下見に来ていただいている。

**松井委員**

・校長会などでは、泉佐野丘陵緑地を環境学習の場として、議題に取り上げていただいている。

**西台委員**

・学習の場として一度使っていただけると、次年度も継続していただける可能性が高い。

**下村委員**

・園内ガイドで案内している団体を、属性ごとに分類しておくとよい。

**増田会長**

・学校など、教育機関の来園数を集計しておくとよい。

＜**協議案件1：持込み型プログラム（案）＞**

事務局より、申込みがあった持込み型プログラム（えんづくりプログラム8件、郷の棚田プログラム2件）について説明があった。

**下村委員**

・営利目的の団体がないこと、またパーククラブと協力できる団体の有無を確認する必要がある。

**増田会長**

・実費程度の参加費は徴収してもよい。そうでない場合は、寄付として考えられることができるならば、徴収可能とすることを検討するとよい。

・例えば、参加費無料のイベントは使用料を徴収せず、有料のイベントだけは使用料を徴収し、公園の運営費に充てるという方法も考えることができる。

**事務局**

・参加費の内訳が分からないため、後ほど詳しく確認し、適宜調整を行う。

**前中委員**

・常識的な額の材料費であれば参加費に含まれていても構わないと思う。

**事務局**

・例えばヨガのワークショップは人件費なのか材料費なのか、確認する必要がある。

**増田会長**

・当面は、人件費ではなく材料費のみを徴収するプログラムを受け入れる方針とする。

・1名によるプログラムは、募集条件に沿わないため受け付けない。

**弘本委員**

・竹を活用するプログラムについては、パーククラブと連携する形をとるのが望ましいのではないか。

**増田会長**

・竹を切るなど、土地に影響を与える場合は、パーククラブとの連携を条件として受け入れを行う方針とする。

・泉佐野丘陵緑地は、来園者を増やすことだけを目的としているわけではない。いろんなプログラムが常に行われていることが重要である。したがって、積極的に継続してプログラムを行っていただける団体を受け入れるべきである。

**弘本委員**

・応募団体には、2名構成など人数が少ない団体が多いので、安全確保等のサポートを行うスタッフを他にも確保可能か否かを確認しなければならない。

**大家委員**

・食事を作る団体についても、スタッフ数や衛生面などやルールづくりが必要になる。

**増田会長**

・例えば木工講習など、のこぎりなどの危険な道具を使うプログラムについては、安全面のサポートができるスタッフがいることが条件となる。

・団体が食事を摂る際のルールも事前に伝えておくとよい。

・郷の棚田プログラムについて。例えばハーブを扱う団体が植えたハーブが大きくなりすぎる場合などは、懸念すべきではないか。

**前中委員**

・一般的な農作物・園芸植物であれば懸念する必要はない。ただし、植えた後の世話については応募団体に確認をとるべきである。

**増田会長**

・何かを植える場合は、団体に入念な計画を立てていただき、大阪府もその妥当性を検討する必要がある。

**弘本委員**

・応募団体に当事者としての意識を持ってもらうように、利用者間の交流会を開くのが良い。

・効果検証や有効活用につなぐため、応募団体に負担にならない程度に簡単な報告書や利用アンケートを提出してもらうとよい。

**松井委員**

・応募があった2箇所以外のエリアの利用については、どう考えているのか。

**事務局**

・追加でプログラムを募集する予定である。

**下村委員**

・水道料金などは団体から徴収しないのか。

**事務局**

・水道料金は徴収しない。

＜**協議案件2：愛称募集について＞**

事務局より、愛称募集の要項について説明。

**増田会長**

・日根野駅などにチラシを設置していただくとよい。また、大輪会にもチラシを配っていただくとよい。

**事務局**

・チラシの設置については有料の駅が多いが、パークレンジャー養成講座のチラシはいくつかの駅に無料で置いていただいた実績がある。再度、それらの駅に営業に行く予定である。

＜**協議案件3：開園1周年イベントについて＞**

事務局より開園1周年イベントについて説明。

**増田会長**

・意賀美神社や農産加工部など、地元との協働はないのか。また、佐野高校にも協力を要請できないか。

・工作のプログラムは、えんづくりプログラムとの連携を検討するとよい。

・企業の森の調印式は、大輪会と大阪府だけではなく、パーククラブも一緒に行ってもよい。

**中村委員**

・調印式というと、支店のスタッフが身構えてしまう可能性がある。

**増田委員**

・調印式には、企業の森づくりに向けてモチベーションを高めるために協定を結ぶ、という意味合いがある。

**以上**